

北海道縦貫自動車道 (^{おおぬま}大沼～^{くんぬい}国縫)

【再評価】

平成23年12月6日

あなたに、ベスト・ウェイ。



1. 位置図①

凡例	
	高速自動車国道(供用中)
	高速自動車国道(新直轄)(供用中)
	高速自動車国道(事業中)
	高速自動車国道(新直轄)
	一般有料道路(供用中)
	一般有料道路(事業中)
	一般国道(直轄事業中)

再評価① 北海道縦貫自動車道 (大沼～国縫)

L=67.6km、二車線
平成24年度全通予定



1. 位置図②

北海道縦貫自動車道（大沼～国縫）



2. 事業の目的および概要

(1) 事業の目的

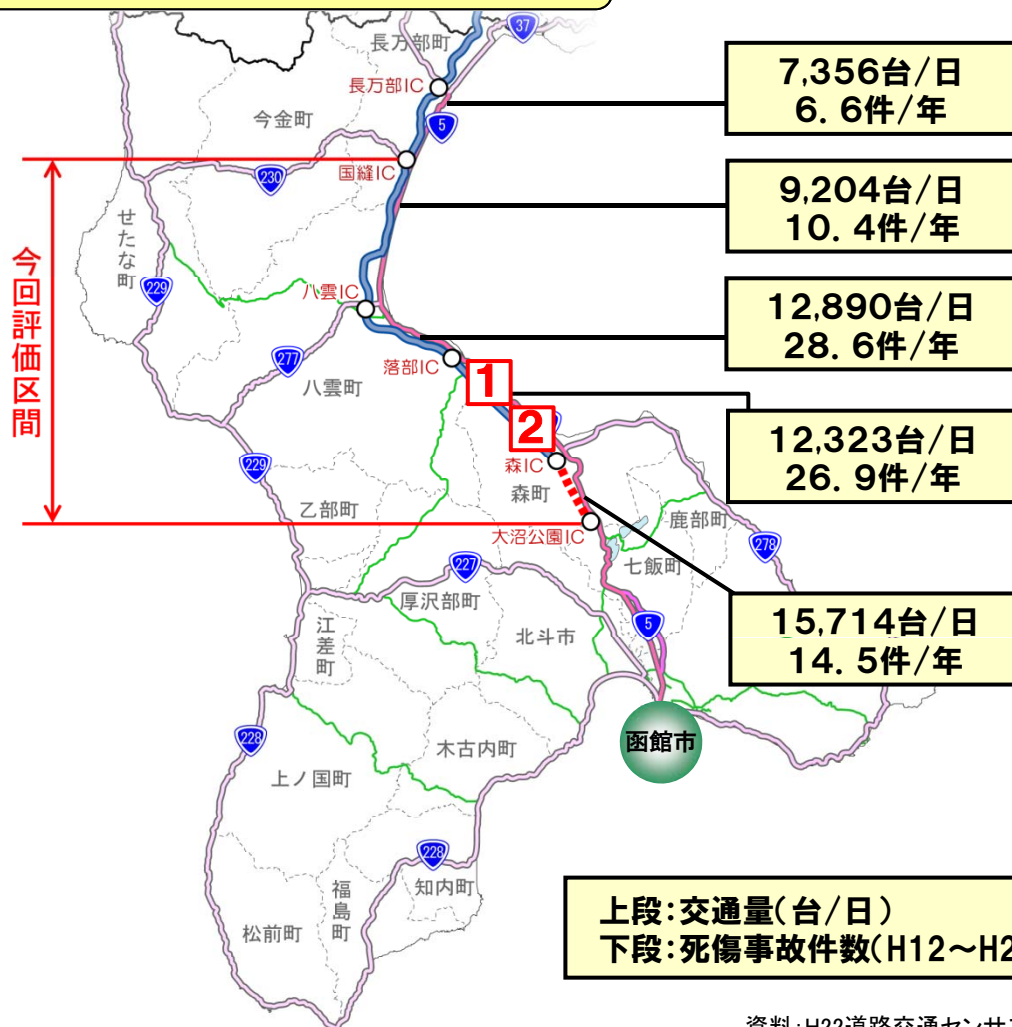
北海道縦貫自動車道は、北海道を南北に貫き、道北・道央地域、道南・道央地域の連絡の強化を図り、沿線地域の産業、経済、文化、観光等の発展に資する路線である。

(2) 事業の概要

- ◆ 区 間 自)北海道茅部郡^{かやべ}森町^{もり}字赤井川^{あかいがわ}
至)北海道山越郡^{やまこし}長万部町^{おしやまんべ}字国縫^{くぬい}
- ◆ 計 画 延 長 67.6km (うち 57.9km供用中)
- ◆ 車 線 数 2車線
- ◆ 規 格 第1種第2級 (設計速度 100km/h)
- ◆ 全体事業費 1,330億円 (税込)

3. 既存道路状況

国道5号 交通量・事故



森町蛭谷付近



森町富士見付近

資料: H22道路交通センサス、ITARDAデータ

3. 事業の必要性と効果①

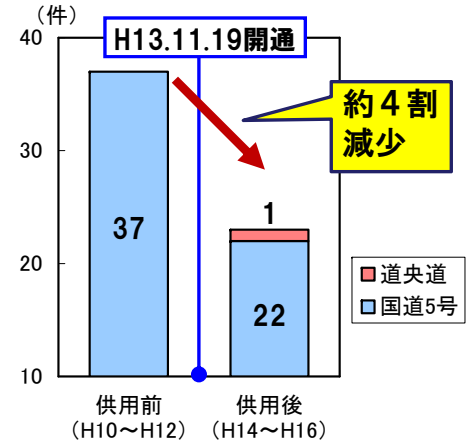
死傷交通事故が減少

■ 縦貫道(道央道)開通により、縦貫道及び国道5号を合わせた死傷事故件数が減少。

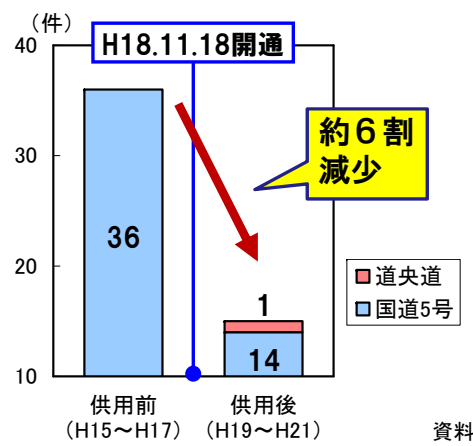
▼ 国縫IC～長万部IC間及び落部IC～八雲IC間開通による縦貫道及び国道5号の合計死傷事故件数の変化

【縦貫道(道央道)及び国道5号の合計死傷事故件数】

<R5は、国縫IC～長万部IC並行区間 3年間>



<R5は、八雲IC～国縫IC並行区間 3年間>



資料:ITARDAデータ

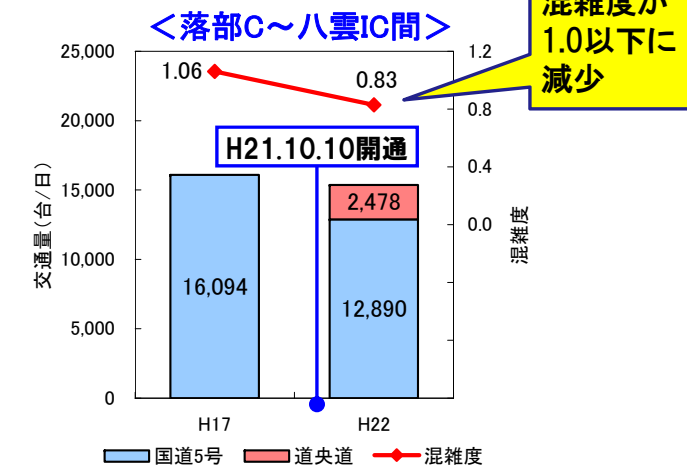
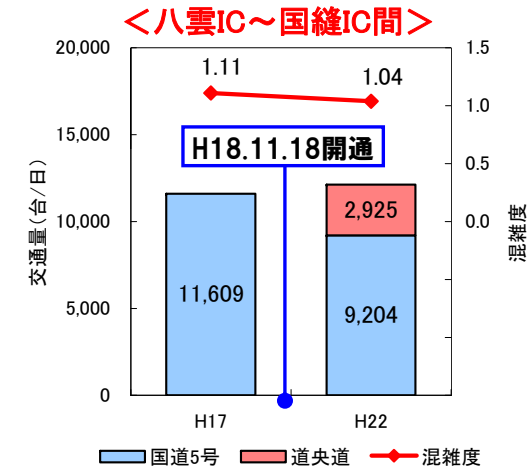
3. 事業の必要性と効果②

交通の転換による一般国道5号の混雑緩和

■ 縦貫道(道央道)の開通により国道5号から交通が転換し、国道5号の混雑が緩和。

▼八雲IC～国縫IC間及び落部IC～八雲IC間開通による 国道5号の交通量の変化

【縦貫道(道央道)と国道5号の交通量・国道5号の混雑度】



3. 主要な観光地状況

主要な観光地



大沼公園



五稜郭公園



トラピスチヌ修道院



松前公園(松前城)



函館山

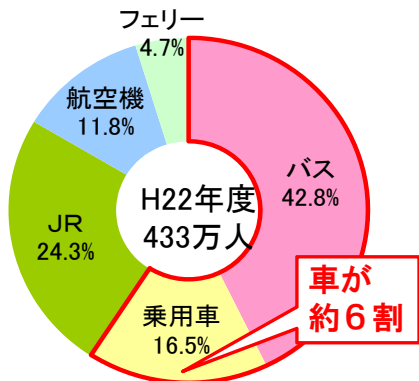
※入り込みは、平成21年度の値
資料: 北海道観光入込客数調査

3. 事業の必要性と効果③

主要な観光地へのアクセス向上＜周遊基幹ルートの形成＞

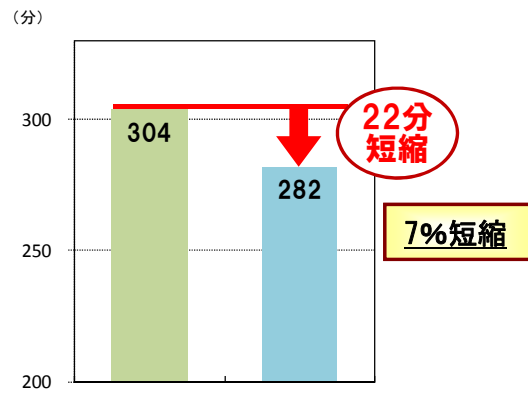
■ 函館へ観光する際の交通機関は、「車」が全体の約6割。
 【縦貫道(道央道)が整備されると】
 函館観光の基幹ルートであり、迅速性・円滑性・安全性の向上により観光振興を支援。

【函館観光の交通機関分担】



資料: H22年度 来函観光入込客数推計

【札幌～函館間の時間距離】



※落部IC～大沼公園ICは70km/hとして算出
 資料: H22道路交通センサス

■ 地域の声＜旅行代理店・鹿部観光協会＞

・札幌発の函館や大沼を巡る観光バスツアーでは、移動時間短縮のため、ほとんど高速道路を利用します。立ち寄り地での滞在時間を増やしたり、立ち寄り地の数を増やしたりといったツアーの魅力向上が可能となります。また、ツアーによっては、札幌での集合時間を遅くしたりとお客様の負担を軽減できます。(旅行代理店)
 ・延伸によって以前より運転者の負担が少なく道南圏へ来訪できるようになってきているので、観光客増加の下支えになっています。函館まで早期に直結していただきたいと考えています。(鹿部町観光協会)

▼ 函館周辺の主な観光地と各地の観光入り込み数



3. 事業の必要性と効果④

災害時の代替路として機能

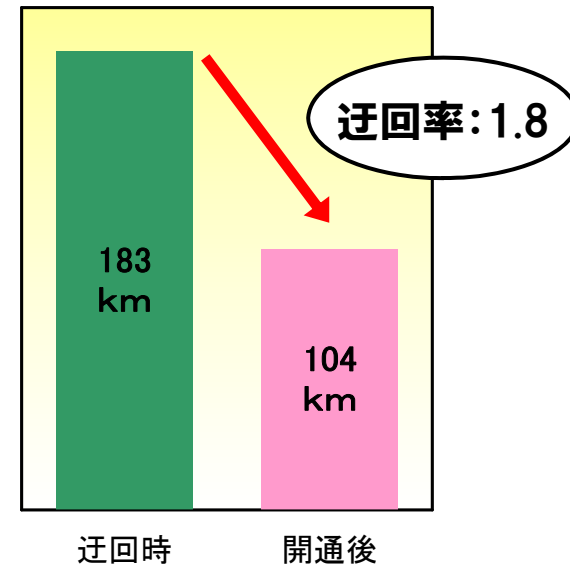
■ 一般国道5号は、大雨などで20年間(H2年度～H21年度)で18回の通行止めが発生。
【縦貫道(道央道)が整備されると】

国道5号の通行止め時において代替路として機能し、円滑で効率的な基幹ルートを確認。

▼一般国道5号通行止め時の高速道路ルートと一般道迂回ルートの比較



【通常時と通行止め時の 函館市～長万部町国縫間の距離】



※函館市役所～R230とR5の
交点間の距離
資料:H22道路交通センサス

3. 事業の必要性と効果⑤

津波被災時の復旧・復興ルート確保

■ 東日本大震災発生時には、津波警報の発令等により、国道5号はもとより、渡島半島沿岸部の国道の大部分が通行止め。

【縦貫道(道央道)が整備されると】

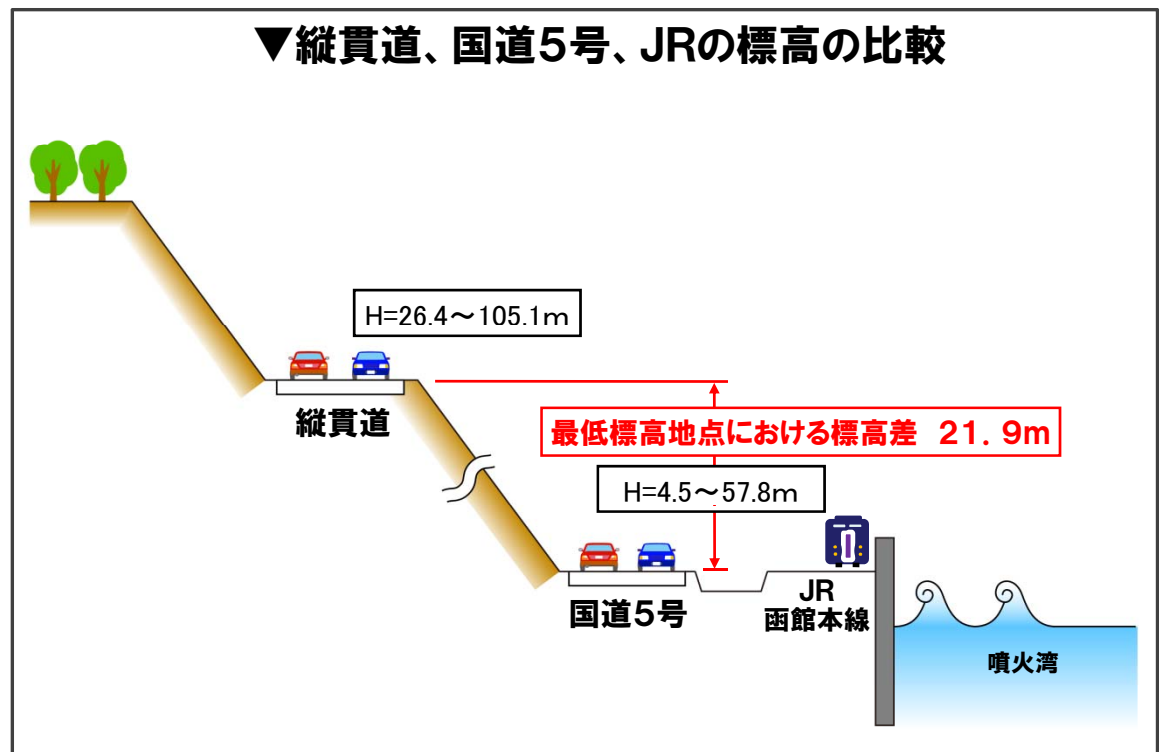
津波浸水の被害を回避し、通行止めとなる国道5号に代わり道央と道南を結ぶ幹線機能を確保。

▼東日本大震災時の通行止め状況



資料: NEXCO東日本

▼縦貫道、国道5号、JRの標高の比較



3. 事業の必要性と効果⑥

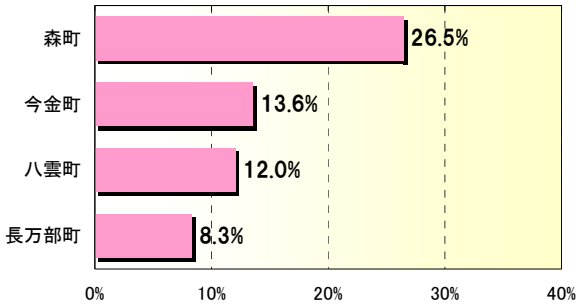
三次医療施設へのアクセス向上

■ 函館市には、三次医療施設である市立函館病院をはじめ高次医療施設が集積。平成22年における森町、八雲町、長万部町及び今金町の4町から函館市への救急搬送件数は、合計363件。

【縦貫道(道央道)が整備されると】
 函館市への救急搬送時間の短縮及び患者負担を軽減し、迅速・安心・安全な救急搬送に貢献。

▼ 周辺市町村から函館市への救急搬送状況(H22)

【救急搬送における函館市への依存率】



資料: 各消防署データ

■ 地域の声<八雲消防本部>

- ・ 現道は、カーブが多く、追い越しにも時間がかかります。
- ・ 高速道路を利用することにより、函館への搬送時間が短縮されることはもちろん、加速・減速の繰り返しがなくなり、患者への負担が軽減します。高速道路が延伸すれば、より利用しやすくなることもあって必ず利用するようになります。

▼ 渡島北部の各町からの救急搬送状況



資料: 「救急医療体制」北海道救急医療・広域災害情報システムHP
 搬送件数は、各消防署データ(H22)

3. 事業の必要性と効果⑦

競走馬の流通利便性向上

- 胆振・日高地域は、競走馬生産において全国生産の9割以上を占める一大産地。
- 道内外への輸送に際しては、馬のストレス軽減のため、輸送時間の短縮及び揺れの抑制が最も重要であり、高速道路の利用が不可欠。また、道外へは、万一の対応に備えるため航行時間の短い函館港から青森港へのフェリーを利用。

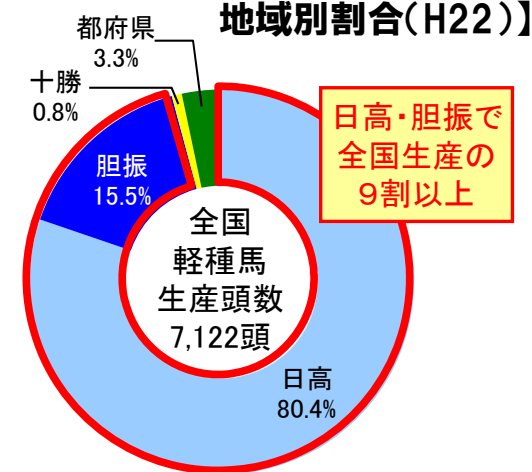
【縦貫道(道央道)が整備されると】

迅速で安全性の高い輸送が可能となり、競走馬輸送の流通利便性が向上。

▼競走馬の道外への輸送ルート



【競走馬(軽種馬)生産頭数の地域別割合(H22)】



資料:「軽種馬生産を巡る情勢」
北海道日高振興局馬産地対策室(H23年6月)

■地域の声<軽種馬運送業者>

- ・ 競走馬は専用の輸送車で大切に運んでいますが、狭い車中では非常に強いストレスを受けます。また、フェリーの中では万一の場合の対応が困難なため、航行時間の短い青函フェリーを利用しています。
- ・ 速く、静かに、安全に運ぶことが最重要であり、輸送に際しては、高速道路を100%利用して函館まで行きます。一日も早く函館まで高速道路が繋がることを望んでいます。

資料: 日高軽種馬農業協同組合、軽種馬輸送業者、北海道軽種馬輸送事業協同組合への各ヒアリング

3. 事業の必要性と効果⑧



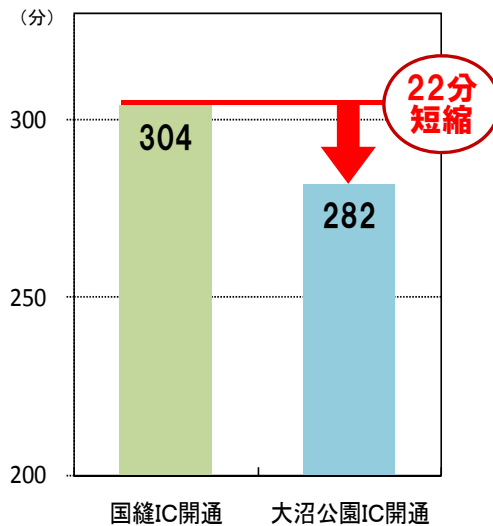
都市間高速バスの利便性向上

■札幌～函館間を運行する都市間高速バスは、「高速はこだて号」が8往復／日、「特急函館ニュースター号」が6往復／日（平成23年3月新規参入）運行。

【縦貫道(道央道)が整備されると】

都市間高速バスの直行便の増便や運行時間の短縮などサービス向上が図られ、利用者の利便性が向上。

【札幌～函館間の所要時間の変化】



※落部IC～大沼公園ICは70km/hとして算出
資料:H22道路交通センサス

■地域の声くバス事業者>

- ・札幌～函館間の高速バスは、所要時間の短縮が大きな課題です。直行便など、さらに時間短縮できれば、もっと利用者の増加が期待できます。
- ・今後も道央道の延伸の状況に応じて、運行時間や停留所の位置など、利用者サービス向上を図っていきます。

▼札幌～函館間の都市間高速バスの運行状況

「高速はこだて号」

八雲IC経由 普通便 5往復/日

落部IC経由 直行便 3往復/日

停留所：八雲※、森町※、七飯町、桔梗、昭和4丁目、五稜郭駅前、函館駅前バスターミナル、湯の川温泉

(※印は、普通便のみ)

▼札幌～函館間都市間バス「高速はこだて号」

「特急函館ニュースター号」

落部IC経由 6往復/日

停留所：函館駅前バスターミナル、湯の川温泉

● 高速バス停留所

※湯の川温泉については、3箇所のホテルに停車(高速はこだて号のみ)
資料:北海道中央バス時刻表、北海道バス時刻表



3. 事業の必要性と効果⑨

日常生活圏中心都市へのアクセス向上

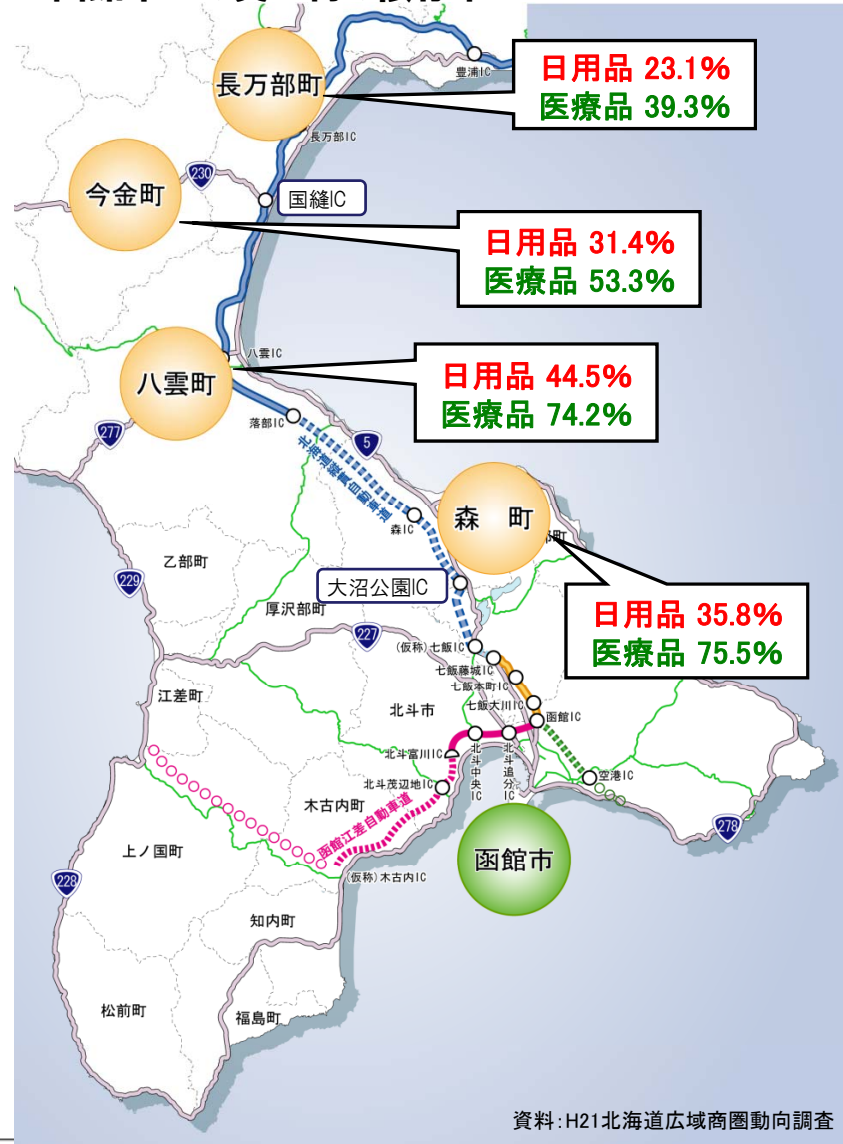
■道南圏、特に渡島北部の各町の日常生活活動は、商店や病院等の都市機能が集積する函館市に大きく依存。

【縦貫道が(道央道)整備されると】
函館市へのアクセス向上が図られ、住民の日常生活の利便性が向上。

■地域の声<八雲町役場>

- ・八雲町の住民は、普段の買い物はもちろん通院などで日常的に函館市に行っている人が多い状況です。
- ・高速道路が延伸すると、目的や状況に応じて選択できる道路が増えるため、生活が大変便利になります。

▼函館市への買い物の依存率



資料: H21北海道広域商圏動向調査

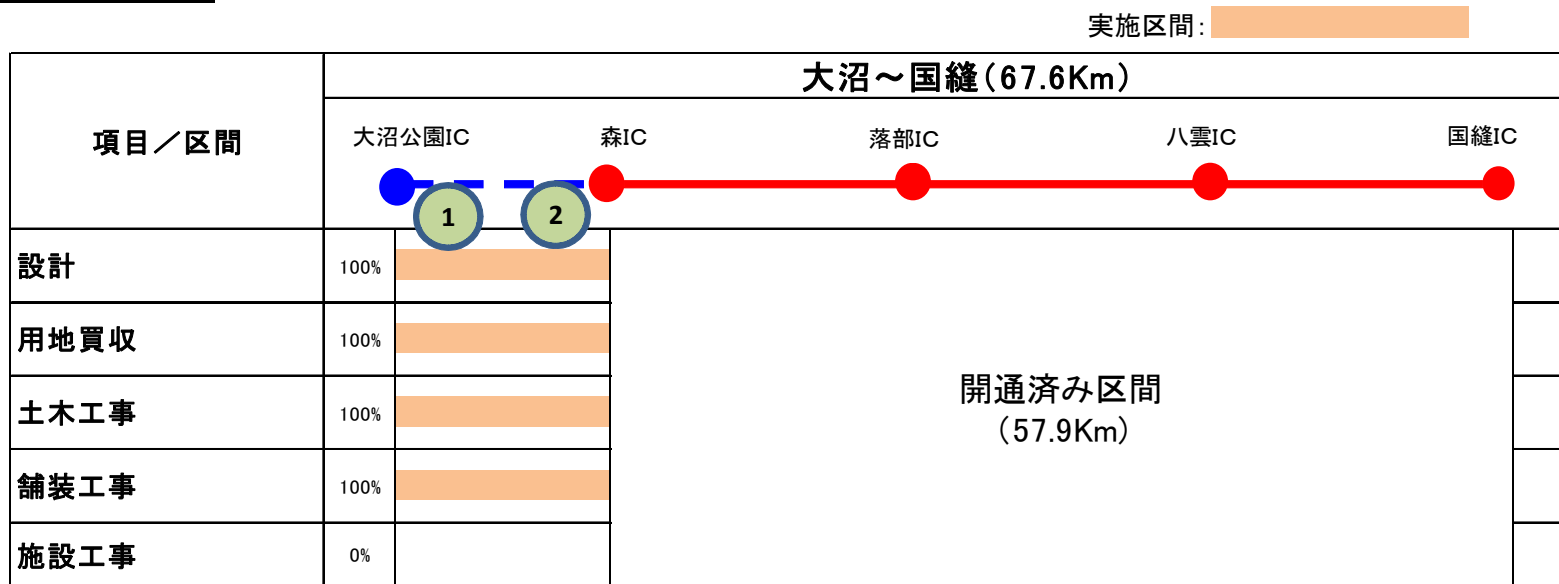
4. 事業の進捗状況①

	大沼～森	森～落部	落部～八雲	八雲～国縫
◆事業の経緯				
整備計画決定	平成元年 1月			
施行命令	平成 5年11月			
実施計画認可	平成 6年 9月			
用地着手	平成11年 6月		平成11年 2月	平成10年 2月
工事着手	平成12年 2月		平成11年 2月	平成10年 2月
◆完成予定年度	平成24年度	平成23年11月供用	平成21年10月供用	平成18年11月供用
◆事業費	1,330億円			
事業進捗率 (平成23年9月末)	86% (土木工事着手100%)			

4. 事業の進捗状況②

- 森IC～国縫IC間については、平成23年11月26日までに供用。
- 残る事業区間の、大沼公園IC～森IC間については用地取得が完了し、土工・橋梁工事及び舗装工事が全面展開中である。
- 平成24年度の完成を目指し、事業を着実に推進している。

事業進捗状況

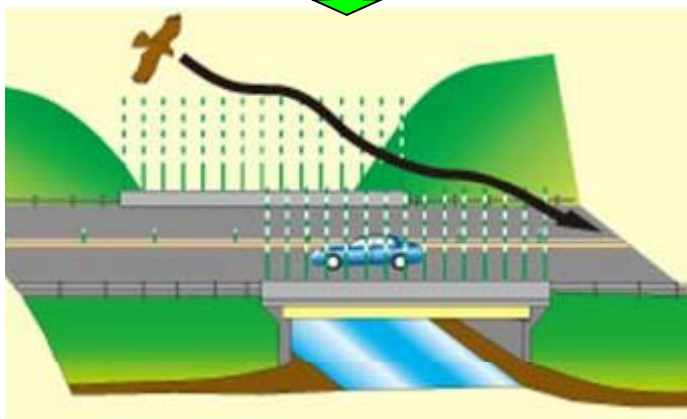
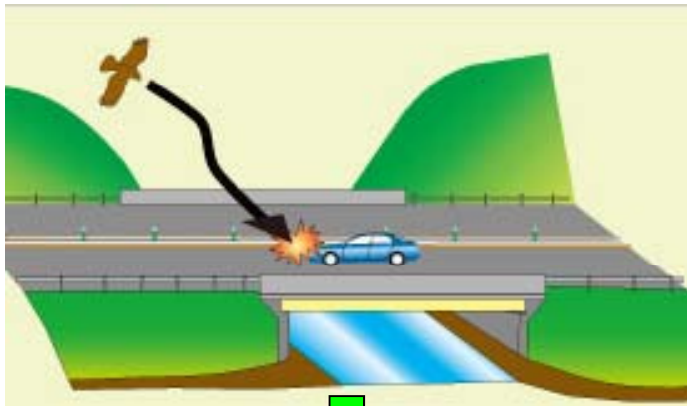


5. 本評価区間における取組み① ～環境対策～

NEXCO

鳥類衝突防止柵の設置(森～落部)

■ 河川に遡上するサケ等を捕食するため飛来するオジロワシやオオワシ等の猛禽類と車両との衝突防止対策として、橋梁高欄に高さ3mのポールを設置し、道路への侵入防止を図っている。



5. 本評価区間における取組み② ～地域連携～



ホタテ貝殻の舗装(上層路盤)への活用

■噴火湾に面する地域では、水産加工品の「ホタテ」が特産となっているが、加工後に発生する副産物の貝殻は廃棄物として処分される。この貝殻を粉末状にしたものをアスファルト舗装材料の一部として有効利用を図った。ホタテ貝殻を粉末状に加工した材料をアスファルト舗装材料として採用し、地域の廃棄物抑制対策に取り組んでいる。



→
粉碎



↓
混合



←
舗装



5. 本評価区間における取組み③ ～文化財保護～

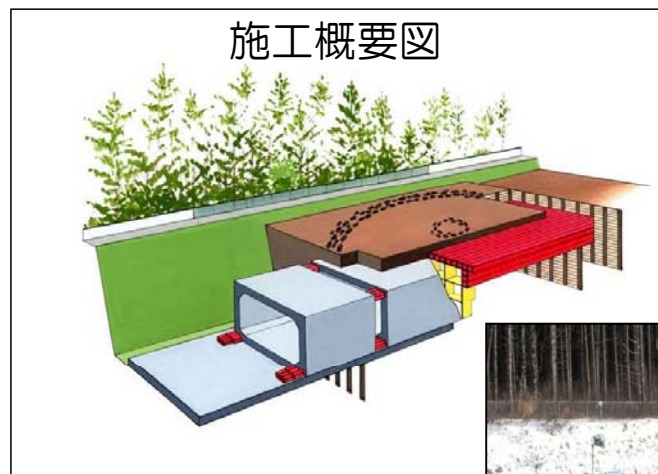
国指定遺跡「鷲ノ木遺跡」保護対策

■ 落部IC～森IC間の建設区間にある鷲ノ木遺跡

- ・平成18年には国指定遺跡に指定
- ・平成20年には北海道・北東北を中心とした縄文遺跡群として、世界遺産の暫定リストに追加。
- ・現状保存するため非開削工法によりトンネルで高速道路部を施工



最大規模となる37mの楕円形で、20cm～60cmの石・約600個から形成



6. 事業の投資効果

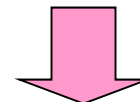


費用対効果分析結果

◆総便益 基準年における 現在価値(B)		全体事業	残事業
	走行時間短縮便益	2,326億円	2,326億円
	走行経費減少便益	241億円	241億円
	交通事故減少便益	134億円	134億円
	計	2,701億円	2,701億円

◆総費用 基準年における 現在価値(C)		全体事業	残事業
	事業費	1,569億円※	80億円
	維持管理費	366億円	366億円
	計	1,936億円	446億円

※ここでの事業費は、P3の全体事業費を、基準年における現在価値化しているため、値が異なっている。



費用便益比 B/C

全体事業 1.4 残事業6.1

7. 関係する都道府県の意見



北海道知事の意見 平成23年12月2日

高速ネットワークの拡充による道央圏と道南圏の連絡強化により地域間交流の活性化や物流の効率化が図られるなど、道民生活の向上や経済・社会活動の活性化に寄与することから、当該事業の継続について異議はない。

なお、事業の実施にあたっては、環境への影響を最小限にとどめること。また、早期供用を図ること。

8. 今後の対応方針(案)

(1) 事業の必要性等に関する視点

- 当該区間は、道央圏と道南圏の連絡の強化を図り、沿線地域の産業・経済・観光、物流の効率化、救急搬送に不可欠な道路である。
- 当該区間は、国道5号の交通分散機能や事故・災害時におけるリダンダンシー機能を有する。
- 費用対効果(B/C)は、1.4である。

(2) 事業進捗の見込みに関する視点

- 残る事業区間の、大沼公園IC～森IC間は用地取得が完了し、土工・橋梁工事が全面展開中である。
- 平成24年度の完成を目指し、事業を着実に推進している。

(3) 対応方針(案)

- 当該事業の再評価は『事業継続』とする。